



シリントーン王女に論文を献上する比嘉教授(1989年)

発展を遂げた若き比嘉教授。タイ王国並びにタイ国民の発展のためにEMおよびEM技術を活用し続けてきました。この度の名誉博士号の授与は、24年の歳月を経て、それが本当に実績を伴った技術として認められた証であり、シリントーン王女との約束を果たした形となりました。

比嘉教授の特別講演開催

授与式の翌日には、ラーチャモンコン工科大学のラッタナコーシン校にて、比嘉教授の特別講演「EM技術の

重要性と今後の将来像」が開催されました。平日にも関わらず250名程の参加があり、参加者は熱心に比嘉教授の講演を聞いていました。講演会場の内外では、EM活動のパネル展示や、EMの商品紹介が行われ、特に、タイの住宅公社のEMの活動事例並びに、バンコク市内のポツプツク生ごみリサイクルセンター(本誌16号掲載)の事例、EMの石けんなどの紹介が行われました。

また、比嘉教授の講演に先立ち、タイ国内の3名の実践者によるEM活用の事例発表が行われました。



特別講演を行う比嘉教授



特別講演を聞きに来た来場者の方々



授与式でシリントーン王女から証書を受け取る比嘉教授



比嘉教授に対し名誉博士号を与える証書

比嘉照夫教授が EM技術の功績をたたえられ、タイ国立大学の名誉博士号を授与

2013年11月4日に、ラーチャモンコン工科大学において、比嘉照夫教授が、名誉博士号を授与されました。これは、タイ王国においてEM及びEM技術の多大なる功績が認められたもので、「持続可能なエネルギー」ならびに環境分野に関する名誉博士号として授与されました。



タイのEM関係者と比嘉教授(前列中央)と節子夫人(前列右から3人目)

EMを活用したさらなる農業発展に向けて

比嘉教授は、講演会翌日にバンコク北部にある世界救世教タイ国本部とサラブリー救世自然農法センターを訪問(本誌16号掲載)。センター職員・先生・学生が迎える中、EMと同センターのこれまでの経緯や目的、数々の活動をお話されました。

比嘉教授は今回の訪問から、同センターの特別技術顧問となりました。今後はより一層、最新のEM情報・栽培方法等がサラブリーセンターに教授・実践されていきます。このセンターがタイ、並びにアジア・



同センター内にある農場の視察の様子



比嘉教授の話に耳を傾ける、サラブリー救世自然農法センターの職員・先生・学生たち



左から、同大学学長のワスタンナー・ピット教授、大学評議会会長のクラヴァンナヤ氏、比嘉教授、前大学評議会会長で現タイ工業連合会長兼カンコンエレクトリック協会会長のプラバット・ポティボラン氏

王女様から直々に授与

れました。王国制のタイでは、王室の方から直々に授与されるのは特に名誉なことです。

シリントーン王女はタイでも国民の人氣がとて高い方です。また、比嘉教授は午後の授与者のトップバッターでした。この事は、タイ王国においてEMの実績が非常に高く評価されている表れであり、これまでの比嘉教授のタイへの貢献は測り知れないものであることを示しています。

24年ぶりの再会

1989年当時、タイ東北部の国立コンケン大学は設立25周年にあたり、新しい校舎を建築。その落成式に、シリントーン王女が主賓として招かれていました。その同じ日に、比嘉教授も第1回国際自然農法会議の準備のためにコンケン大学を訪れており、EMとEM技術を用いた、タイの農業振興並びに発展を誓って、IFOAM(国際有機農業運動連盟)がアフリカのブルキナファソで開催した国際会議に提出したEMの論文をシリントーン王女に献上していました。

王女の前で、直接タイの農業振興と

太平洋への自然農法普及のために多くの役割を担っており、将来のアジア太平洋地域のモデルとして益々の発展が期待されます。